

## 社会的弱者の働き場をめざす 「コミュニティ・キッチン」設立趣意書

ワーカーズ・コレクティブは、戦後の産業社会がもたらすさまざまな社会問題への解決策のひとつとして、「雇用ではないもうひとつの働き方」を地域で暮らす団塊の世代及びその前後の女性達を中心となって提案し実態をつくってきました。(1982年)子育てや介護など命をつなぐためのアンペイドワークを担ってきた女性達の、「働きたい」「社会参加したい」と言う思いが、協同組合を母体とするワーカーズ・コレクティブの誕生により実現できたのです。常勤で働くことが当たり前であった時代に、短時間ワークで個人を尊重しあう働き方は主に地域で暮らす女性たちの手で広がりました。

ワーカーズ・コレクティブ協会では、コミュニティワークの拡充をめざしワーカーズ・コレクティブによる障害者就労支援の調査研究を3年間に渡って行ってきました。

この調査によって私たちが26年前から実践してきた「もうひとつの働き方」は、時代を先取りしたモデルであり、障害を持つ人のみならず競争社会に馴染めない人やなんらかの困難を抱えている人達にとって大変有効であることが分かって来ました。

しかし、ワーカーズ・コレクティブのメンバーとして働くことが困難なケースもあり、ワーカーズ・コレクティブの良さを生かしながら社会的弱者の雇用を保障する働き場の必要も見えて来ました。

そこで、協会では今の生きにくさを抱える社会の解決策のひとつとして、「イタリアの社会的協同組合 B 型」を参考にした、社会的弱者とされる障害者・高齢者・女性・無業の若者たちの働き場をあらたに創ることとしました。この働き場は、労働と福祉の視点を合わせ持つたすけあいを重視した働き場です。

この事業は惣菜事業「コミュニティ・キッチン (仮称)」として横浜市瀬谷区三つ境に店舗を設けてスタートします。地域のワーカーズ・コレクティブやNPO、協同組合などの非営利・協同のネットワークで人・金・もの・ノウハウを拠出し地域で育てる働き場です。事業者として社会的保護の立場を自覚しながら彼らの生き方・働き方を支えていく「コミュニティ・キッチン (仮称)」は、これまでにない試みであることから、事業が安定するまでの3年間をワーカーズ・コレクティブ協会の就労支援事業のひとつとして取り組み、新しいワーカーズ・コレクティブモデルの可能性を追求します。

2008年11月21日

一色節子、伊藤保子、木村真紀子、岡田百合子、石橋純子、上田祐子、久米邦子、島田文子、島田洋子、高橋桃代、森恵美子、大島朝香、中村久子

以上